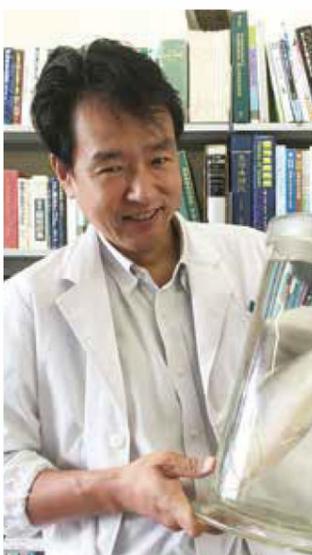


ふじのくに地球環境史ミュージアムでは、展示や教育プログラムの実施だけでなく、高い専門知識を有する研究員による、世界レベルの調査研究活動を行います。このコーナーでは、インタビューを通じて研究員の仕事や、その素顔を紹介していきます。



学芸課長 教授

し ぶ か わ こ う い ち
渋川 浩一

1969年兵庫県生まれ。東京水産大学大学院資源育成学専攻で博士課程を修了した後、各地の博物館等にて研究・研究支援業務に従事。2015年4月に着任。専門は魚類分類学。主にハゼ類等の小型底生魚類を対象とした多様性解明に取り組んでいる。

静岡県は、「魚が濃い」

Q 魚類が専門である渋川教授ですが、「静岡県の魚の面白さ」についてお聞かせください。

A.「タテに見てもヨコに見ても面白い」のが静岡です。富士山から駿河湾まで6,000mを越す高低差、総延長506kmにも及ぶ複雑な海岸線がもたらす水域環境の変化は、多種多様な魚たちに生活の場を与えています。見られる魚の種類も個体数も、とにかく多い。フィールド調査をしていると「魚が濃いなあ!」とよく感じます。ときには専門家でも「何これ?」と二度見してしまう魚が採れる場所もあります。魚好きにはたまらない場所ですね。

Q そんな渋川教授が製作した常設展示室3「ふじのくにの海」が人気です。みどころを教えてください。

A.壁の下方や床を青く塗り、照明も青色を基調としたものにする事で、展示室に入った瞬間に「水の世界」を感じるデザインとなっています。大きなサメや深海生物といった様々な海洋生物の実物標本を間近でじっくりと見ることが出来るのも魅力ですね。高校時代の学習机をさりげなく活用した展示什器や、「ペリーとサンマ」「小さなバガボンド」等、一見「…何?」と思ってしまうようなエッジの効いたキャッチコピーも、お楽しみください。

Q 移動ミュージアム「ミュージアムキャラバン」の第3弾として、「おさかなキャラバン」を企画中と伺いましたが…

A.はい、年内の完成を目指して鋭意作成中です。ただ魚は、はっきり言ってキャラバン向けの素材ではありません。例えば、魚は標本にする時時の美しい体色があせてしまいます。かといって着色した剥製では、どうしても「作り物」感が出てしまいます。頻繁な運搬、設置・撤収作業のことを考えると、液体や重い樹脂素材等多用できません。魅力的なキャラバンにするにはどうすればいいか。日々悩み、試行錯誤を続けています。

魚の美しさを標本として見せる難しさを語る渋川教授の苦悩に満ちたまなざしが、教授の真摯な人柄を物語っていました。—— 次回は、「植物博士」高山准教授です。

アクセス

〒422-8017 静岡県静岡市駿河区大谷5762(旧 静岡南高校)

🚗 自家用車でお越しの場合(ナビでお越しの際は、住所で検索してください。)

- ・ 東名高速道路静岡ICから15分
- ・ JR静岡駅から20分
- ・ 駐車場 無料(200台)

🚌 公共交通機関でお越しの場合

- ・ 静岡駅北口バスターミナル [B-B乗り場から美和大谷線「ふじのくに地球環境史ミュージアム」行き(約30分)終点下車]

ふじのくに地球環境史ミュージアム NEWS LETTER

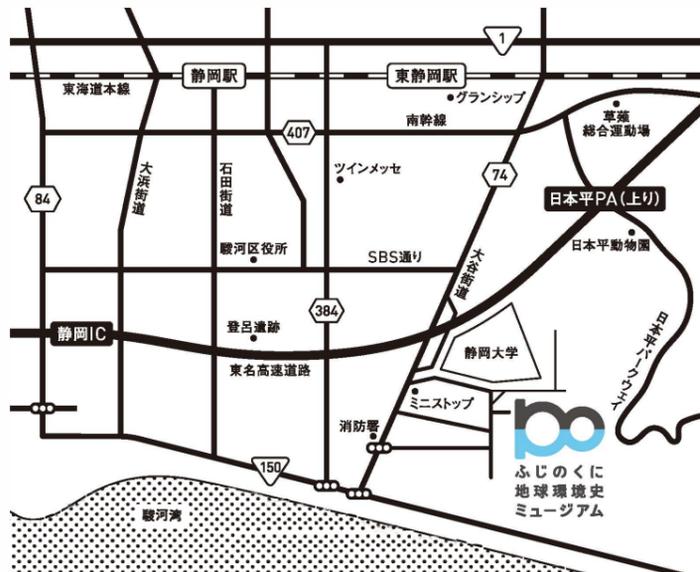
発行：ふじのくに地球環境史ミュージアム 企画総務課

[TEL] 054-260-7111 [FAX] 054-238-5870

[E-mail] info@fujimu100.jp [ホームページ] www.fujimu100.jp

🐦 https://twitter.com/fujinokuni_NEM

📘 https://www.facebook.com/fujinokuninaturemuseum



百年後の静岡が豊かであるために

NEWS LETTER



ふじのくに地球環境史ミュージアム ニュースレター

□ミュージアム秋の文化祭 □ミュージアムダイアリー □研究者リレーインタビュー

[vol.004]



ミュージアム中庭

写真:竹田武史

日々成長するミュージアム

2016年3月26日(土)にふじのくに地球環境史ミュージアムが開館して、半年が経ちました。開館以来、およそ5万人のお客様にご来館いただいています。

ふじのくに地球環境史ミュージアムでは、これまで博物館が一般的に行ってきた「見る展示・触る展示」から、「考える展示」への進化を試みています。展示室では、あえて展示品のキャプション(解説文)を減らす一方で、館内のサービススタッフやミュージアムサポーターが、来館者と会話しながら展示解説を行っています。また、NPO法人静岡県自然史博物館ネットワーク及び当館研究員によるミドルヤード(講座室)での標本製作公開も、当館の特長の一つです。そして、「考える展示」そのものを表現した「地球家族会議」は、開館から毎日欠かさず開催され、通算800回を超えました。

来館者との会話を重ねることにより、館内スタッフの説明スキルも日増しに向上しています。日々成長するふじのくに地球環境史ミュージアムに、是非お越しください。